

タマシン・アレンさんのように

谷地 桜嘉

みんなのために、地域のために尽くすことのすごさ、そのために行動すること、努力することの大切さについてタマシン・アレンさんの一生から教えられた。そして、今の自分だったら何ができるのかを考えるきっかけとなった。

タマシン・アレンさんの行動で心に残ったのは、日本にアメリカからやってきて、陸の孤島と言われた久慈で自然災害の支援をしたり学校を建てたりしたことだった。もっとすごいのは、戦争でアメリカに帰国させられたのに、アメリカで日本のことを忘れずに支援物資を集め続け、また久慈に戻ってきたことだ。どうしてそこまでできたのだろう。困っている人を見つけても助けてあげられる自信がない。

自分が地域のためにしていることがあるか考えてみた。あるのかなあ。なんだろう。考えてみた。地域を盛り上げようとずっと練習してきた盆踊りの歌に挑戦していることだろうか。誰もやりたい人がいなかったのだから、ちよつと興味があつて立候補してみた。正直大変だった。歌詞の読み方から間違つたし、短い歌のパターンと長い歌があつた。どっちがどっちか分からなくなつたこともあつた。でもこの先、続けていけば、地域のために行動することにつながるかもしれない。

また、ガタゴン祭りに初めて学校で出店した。今年で閉校になる来内の

最後の出店だ。ぼくは店長。学校の花のツツジのつまみ細工の売り出し。夏休みにつまみ細工の先生にも習った。みんなの心のこもった花のかざり。このかざりでみんなが笑顔になればいい、そう思った。値段づけ、目を引く看板作り。準備は順調に進んだ。開店した。気づいたことがある。ぼくは、接客が苦手だったのだ。商品は、仲間のおかげでどんどん売れていく。うれしかった。僕は、お客さんに声をかけたつもりだったが、声が小さいのか聞こえないようだった。売れない。できると思っていたことが、できなかった。すぐに行動できなかった。今できることを探して、すぐに行動することは、難しかった。困っている人のためにすぐに行動するタマシン・アレンさんのすごさが分かった。その行動力が欲しい。

久慈のために全力を尽くしたタマシン・アレンさんの行動で、今の久慈市がこれだけ豊かになっていると思う。みんなの幸せを自分の幸せと考えたと宝物みたいな気持ちをもっているんだと思った。

ぼくは、今何ができるか探して、すぐに行動したい。ただ見ているだけの自分をなくしたい。誰かが困っていたら助けたいし、みんなを救うために行動する人になりたい。少しずつでもタマシン・アレンさんに近づきたい。小さな行動でも、みんなの幸せにつながって行って、僕の心の宝物になると思うから。